

ふくら通信

～2023年春号～



こんにちは。4月は進級・進学の時節ですね。今年は桜の開花も早く、入学式には葉桜となってしまいましたが、春の花達が次々と咲き始め、彩りある景色に癒される日々です。進級・進学をされた皆様、おめでとうございます！！ふくらでも児童発達から放課後等デイに上がったお友達、放課後等デイから生活介護に入られた方々もいらっしゃいます。また違った形でも引き続きふくらで関わっていただけることをスタッフ皆とても嬉しく思っています。新たな環境に慣れるまでドキドキの利用者様も中にはいらっしゃいますが、早く慣れて毎日楽しくふくらに通ってくれたら嬉しいなと思います。

また、4月からは日立市森山町の生活介護「ふくら光」が再開となりました。茨城県北エリアの方のお役に立てるようスタッフ一同頑張りたいと思います。

そして、スタッフも新しいメンバーがたくさん加わりました。法人全体で、2023年1月～3月に4名入職し、また4月・5月でなんと8名のスタッフが加わります！！通所部門だけでなく訪問看護にも、とっても素敵な作業療法士・理学療法士の新しいスタッフも入り、訪問リハビリのニーズによりお応えできる環境となっています。新入社員のご紹介もおいおい出来ればと思っておりますので、新年度もどうぞ宜しくお願いします。



代表コラム



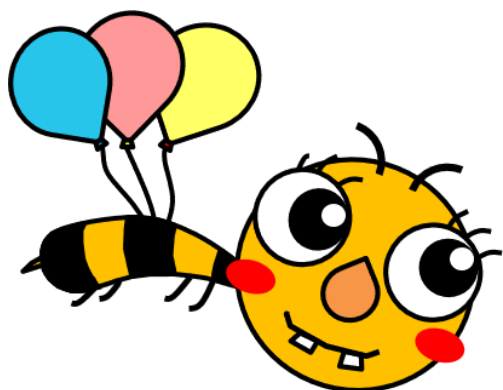
株式会社福蔵FUKURA 代表取締役 須田 祥子

【母の残したもの】

昨年夏に一緒に暮らしていた母が亡くなり遺品を片付けている。何からなにまで後生大事に物を捨てずにとっておく母は、断捨離がブームとなっている今の時代と逆行していてそのライフスタイルは時に家族とトラブルになることもあった。人との思い出も大切にしていた母は独身時代の頃からの受け取った手紙もすべて箱にとってあった。「何もかも捨てずにとっておいたのね、やれやれ・・・」とちょっと苦笑しながら中を見てみると、母が教員になったばかりの年に、下宿先に母親から届いた手紙。65年くらい前の手紙なので解読しにくいけれど「妹がこの寒い中、ペラペラの雨合羽で学校に行っているのだから冬にふさわしいコートを買ってやってもらえないか。本人は安い生地を買って縫うから買わなくて良いと言っているけれど、見るに見かねて。お金は分割で返します。」という内容でした。しかしのちの手紙を見ると、母はお金も返してもらわずに妹にコートを買ってあげたようだった。昔は兄妹姉妹も多く、奨学金で大学に行かせてもらった母は「お給料日にアイスクリームを自分のために買うのを楽しみにしていたけれど、あとは家族のために使った」と話していたことがある。私は昔の自慢話でも聞くかのように「ふう～ん」と、うわの空で返事をしていた。しかし、この65年ぶりに開かれた手紙の中から、戦後の日本で苦勞しながら自分のことよりも家族のために生きてきた母の人生がありありと身近に迫ってきて、その若々しい母親が妹のためにコートを買に行っている姿までもが映像として浮かび上がってきた。物にあふれ、時代に恵まれた私たちには分からない苦勞を経験してきたからこそ、あらゆるものを大切にする気持ちと姿勢が培われたのだと腑に落ちた。「今までわかってあげられなくてごめんね」と心の中で手を合わせる。「自分自身の人生はいただいているもの」と思えるような感覚にさえ陥った。複雑に絡み合った先代たちの苦勞の上に成り立って今の私達がいるのだ。人生と命をいただいたことに感謝をしつつ、時間の経つのを忘れて春の日差しが斜めに差す物置小屋で座り込んで手紙の数々を眺めておりました。小さな頭と2つの目では見ることのできない人の恩や優しさに気づける私たちでありたいものです。

【重症児の心の声を聴きたい】

そんな気持ちを込めて作ったポエムをひとつ載せたいと思います。



僕は重症心身障害児
僕は思うように動けない
でもね、ほら 僕の心はこんなに自由なんだよ
僕の心が人に見えるといいのに

ママが優しく抱っこしてくれるでしょう
心がふわ～ってなってるうれしいんだ
ママが顔をふいてくれたり
痰を取ってくれたりするでしょう
ママを感じてすごうれしいんだよ
ママ大好きだよ



僕の心がママに見えるといいのにな